

教科等研究会（小学校生活・総合的な学習部会） 令和２年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

豊かな体験と表現に支えられ 学びをつなぎ 学びを深める子どもの育成
～児童一人ひとりが輝く授業づくりを通して～

2 研究経過

第 1 回			第 2 回				第 3 回（中止）		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	講師	期日	場所	内容
七月六日 （月）	二十九名	広安西小学校	十一月二十四日 （火）	広安西小学校	小谷 由貴美 教諭	倉岡 佳世 熊本市立龍田小学校 主幹教諭	一月二十二日 （金）	御船小学校	実践発表会

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度から全面実施となった新学習指導要領では、生活科の低学年教育における役割や、学校教育目標と直接的な関わりを持つ総合的な学習の時間の位置付けがより明確に示された。生活科と総合的な学習の時間の重要性を再認識し、平成25年度に上益城郡で開催された「熊本県小学校生活科・総合的な学習の時間研究大会」以来深めてきた研究のさらなる推進に努めた。

今年度の当部会のテーマは、上益城郡教科等研究会全体テーマを受けて、「豊かな体験と表現に支えられ 学びをつなぎ 学びを深める子どもの育成～児童一人ひとりが輝く授業づくりを通して～」とした。これまでの研究の成果と課題から、今年度は特に表現活動を重視して研究を進めた。

① 研究主題について

○「豊かな体験と表現」とは

子どもたちの中に感動や葛藤が生じ、知的好奇心を高め、探究的な学習へつなぐことができる体験、及び、活動の楽しさ・気付きや情報を整理・分析したことを、多様な方法によって伝えたりまとめたりすること

○「学びをつなぐ」とは

子どもが「探究的」「横断的・総合的」「協働的」な学習を発展的に繰り返し、気付きの質を高めたり、思考を広げたり深めたりしていくこと

○「学びを深める」とは

自分のよさや成長が分かり、学習したことを自分の生活や生き方に生かし、社会の中での自分を見つめ、主体的に行動していこうとすること

② 研究の視点について

研究の視点 1 探究的な学習過程における豊かな体験活動の工夫

研究の視点 2 気付きや考えを整理・分析・表現・交流する言語活動の充実

研究の視点 3 子どもの学びをつなぎ深める指導と評価の工夫

(2) 成果と課題 (○成果 ▲課題)

- 体験活動ばかりでなく、表現活動も重視した実践ができたことにより、体験と表現の繰り返しの中で気付きの質が高まることを再確認できた。
- 子どもの思いが実現される単元構想が研究授業で示され、その中で、学びをつなぎ、学びを深める子どもの姿が見られた。
- ▲どの学校にも、コロナ禍での体験活動をどのように進めていけばよいのかという悩みがあった。(校外に出かける学習や外部の方との交流等)
- ▲総合的な学習の時間の研究授業はできなかった。教育課程における大きな役割を総合的な学習の時間が担っていることを再認識し、各校で取組を進める必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第1学年 生活科 単元「たのしいあき いっぱい」
授業者 小谷 由貴美 教諭 (益城町立広安西小学校)

① 研究の視点に沿った授業づくり

【研究の視点1】「探究的な学習過程における豊かな体験活動の工夫」

- ・身近な校庭を主な活動場所とすることで、何度も繰り返しながら探検活動を行えるようにする。

【研究の視点2】「気付きや考えを整理・分析・表現・交流する言語活動の充実」

- ・「探検活動→報告会→振り返り」を繰り返し行うことで、自分の考えを広げたり深めたりする。
- ・「はっけんカード」や「あきのたからばこ」など、体験を通して気付いたことの蓄積を見えるようにすることで、学習への意欲と高めるとともに、自分のよさやがんばりなどの学びの変容を自覚できるようにする。(【視点3】にも関連)

【研究の視点3】「子どもの学びをつなぎ深める指導と評価の工夫」

- ・一人一人のめあてを設定させることで、誰もが学びたいことを思い切り学ぶことができるようにする。

② 授業研究会

○自評

- ・一人一人が「作りたい」「調べたい」と思ったことに重きを置いて、学習を進めていった。
- ・単元のゴールとして「あきはかせになろう」を示し、目的意識をもって学習に臨めるようにした。
- ・探検活動の後は必ず報告会を行い、発見したことや次にしたいことを発表し合った。
- ・振り返りでは、自分の調べた秋がどんな秋だったのか、考えを出し合った。

○研究協議

- ・体験と表現の繰り返しを単元の中で3回繰り返しており、気付きの質の高まりが見られた点がとてもよかった。
- ・子どもたちの意欲が続いたことが素晴らしい。それは、教師の関わりや声かけがよかったからである。
- ・報告会により、自分が調べたこと以外のことを知ることができた点もよかった。

○指導助言

- ・子どもが「やりたい」と思ったことが実現される生活科・総合的な学習の時間にしてほしい。
- ・「〇〇名人」「〇〇博士」という言葉は、子どもたちは大好きである。先生の声かけで意欲を持続させ、支援して行ってほしい。
- ・思考ツールを用い、自分と同じ・違うなど考えの分類をしていくことも大事である。また、そうした活動の中で、理由付けをして話すこともできるようになる。この力は、他の教科でも生かされていく。

(2) 学習構想案

① 単元構想

単元名		「たのしい あき いっぱい」	
単元の目標		<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、その面白さや自然の不思議さに気付くことができる。 ○秋の自然と関わる活動を通して、それらの違いや特徴を見付けるとともに、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができる。 ○秋の自然と関わる活動を通して、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとするとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。 	
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりたりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
秋の自然に浸り、四季の変化を楽しみながら、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする児童。			
単元を通じた学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
「あきはかせ」になって、あきとなかよくなるよう。		秋の自然を取り入れ、自分の生活をより楽しくしようとする。	
指導計画と評価計画（21時間取扱い 本時21 / 21）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	3	<ul style="list-style-type: none"> ○春、夏と比べて、変わってきたところを話し合う。 ○「あきはかせになろう」という単元のゴールを確認し、校庭探検で発見したことを教え合う。 ○どんな「あきはかせ」になりたいか、一人一人がめあてを持つ。【視点1】 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】 発見カード・発言・行動観察 ○諸感覚を生かして、身近な自然と関わり、秋の自然の特徴を見付けている。
二	12	<ul style="list-style-type: none"> ○校庭、または校区内の公園や神社などを探検し、発見カードに記入していく。【視点1】 ○「あきのたからばこ」に、自分が見つけた秋を集め、分からないことを調べたり、集めた物を使っておもちゃを作ったりする。【視点2】 ○探検報告会を開き、自分の探検を振り返りながら、次のめあてを持つ。【視点3】 	<ul style="list-style-type: none"> ★【知】 発見カード・発言・行動観察 ○探検を通して、自然の様子が夏から秋へ変化してきたことに気付いている。 ★【思】 作品・発言・行動観察 ○秋の葉や木の実などの自然物を使い、工夫して遊んだり、作ったりしている。 ★【知】 発見カード・作品・発言・行動観察 ○遊びや発見の楽しさや遊びを工夫したり創り出したりする楽しさに気付いている。
三	6	<ul style="list-style-type: none"> ○発見したことを、友達に伝えるための準備をする。（図鑑作り、おもちゃの説明書作りなど） 【視点2】 ○「おすすめのあき はっぴょうかい」を開く。【視点2】 ○自分が発見した秋が、どのような秋なのかを考える。【本時】 【視点3】 	<ul style="list-style-type: none"> ★【知】 作品・発言・行動観察 ○紹介する物を作りながら、自然の中のきまりや自然の不思議さに気付いている。 ★【思】 作品・発言・行動観察 ○比べたり、試したり、見直したりしながら、紹介する物を作っている。 ★【主】 作品・発言・行動観察 ○競い合ったり力を合わせたり友達と関わりながら、紹介する物をよりよくしようとしている。 ★【思】 作品・発言 ○本単元で取り組んだことを振り返りながら、友達と交流している。 ★【知】 振り返りシート・発言 ○友達との交流を通して、友達や自分のよさに気付いている。 ★【主】 振り返りシート・発言・行動観察 ○秋の楽しさやよさを実感し、これからも自然と関わっていきいたいという思いを持っている。

② 本時の学習

ア 目標

友達との交流や分類活動を通して、秋の自然のよさや特徴を振り返り、秋に対する見方を広げる。

イ 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>① 前時の発表会で、どのような秋が紹介されたか確認する。 ◇秋の虫、草、葉っぱ、どんぐり、おもちゃ。</p> <p>② 秋を明確に捉えている児童の考えをヒントに、どうして秋だと思ったかみんなで考える。 ◇夏にはない。秋にしかないから、秋だよ。 ◇秋には、どんぐりがいっぱいあるよ。</p> <p>③ 「たくさんとれるあき」など、ラベリングをする。</p>	<p>○前時からの学習の流れから、児童の意欲を引き出す。</p> <p>○前時までの発見カードから、より明確に「秋」を捉えている児童を見付け、その見方や考え方を全体に広げることで、全員に秋を明確に捉える(言語化する)よさに気付かせる。</p> <p>○ラベリングの項目名は、児童の発言を生かしてその場で考えることで、活動への意欲を高める。</p>
		<p>【めあて】 あきはかせになれたか、みんなで ふりかえることができる。</p>	
		<p>【学習課題】 みつけたあきが どんなあきか なかまわけをしよう。</p>	
展開	30分	<p>2 課題の解決に向けて話し合う。</p> <p>① 「たくさんとれるあき」ではない秋を出し合い、ラベリングしていく。 ◇落ち葉は、夏から色が変わっているから、「いろがかわるあき」かな。 ◇トンボは、夏にもいたけど、秋は数が増えたよね。「ふえるあき」かな。 ◇バッタは、秋の初めはたくさんいたけど、だんだん少なくなってきたよ。「かなしいあき」にしようかな。</p> <p>② ラベリングしたものを見て、自分が見つけた秋が、どの秋に当てはまるのか考え、分類する。 ◇私の秋は、「○○の秋」だったんだね。 ◇いろんな秋があるなんて、考えたことなかったな。</p> <p>【期待される学びの姿】 秋への見方が広がり、様々な視点から秋の自然の様子を捉え、日常生活の中で新たな秋を探そうとしている。</p>	<p>○一度、自分が紹介した秋がどのような秋なのかを考えることで、自分が秋をどのように捉えているのかを明確に捉え直す。</p> <p>○たくさんさんの秋への見方を出し合うことで、自分とは違う見方を取り入れていく。</p> <p>○春や夏と比べてどう違うのかを出させながら、秋の特徴をより明確にしていく。</p> <p>○秋を明確に捉え直すことができたことを称賛し、「あきはかせになる」という単元のゴールが達成できたことを喜び合う。</p>
		<p>【具体的評価規準】 思考・判断・表現 ○友達と話し合いながら、自分の秋がどんな秋か考え、類別することができる。 (方法：行動観察・発言)</p>	
		<p>【到達していない児童への手立て】 ○板書を見て、どの秋と近いか気付けるように声をかける。</p>	
終末	5分	<p>3 学習のまとめ、振り返りを行う。 振り返りカードに本時(本単元)の気付きを整理し、感想を入れながらまとめる。</p> <p>◇もう一度探検に行って、別の秋を探してみたいな。 ◇僕が発見していない「○○の秋」を見付けていた友達は、すごいな。 ◇発見したことを、他の人にも伝えたいな。</p>	<p>○どんなところに気付いたかを共有する。</p> <p>○他の学級の友達や家族へ伝えたいという気持ちにできるようにする。</p> <p>○冬の自然への関心が高まるようにする。</p> <p>○単元全体を振り返り、友達と協力したり、探求したりしていた姿を称賛し、成長を実感できるようにする。</p>
		<p>【ふりかえり】 あきはかせになれたから、つぎはふゆのことも しらべていきたい。</p>	